

糸島の歴史解説図録 2

志摩の歴史と文化財

— 志摩歴史資料館見学の手引き —





福岡県指定名勝 桜井二見ヶ浦(志摩桜井)

ごあいさつ

糸島市の北に位置する糸島半島は古くから志摩と呼ばれ慣わされてきました。半島の付け根には東西から内海が深く入り、南からながめるとあたかも島のような景観であったことが地名の由来と考えられています。周囲を海に囲まれ、二見ヶ浦、芥屋の大門など奇岩の景勝地が多い風光明媚の地として知られています。

他方、この地域には弥生時代初期の大陸系墓地である新町支石墓群(史跡)や、わが国最古の戸籍である「筑前国鳴郡川邊里戸籍」の故地としても知られるように、わが国の歴史上重要な史跡や文化遺産に恵まれた地域でもあります。

平成二三年には、福岡市の元岡古墳群でわが国最古の干支である「庚寅」の文字が刻まれた大刀が出土したのをはじめ、近年、新たな調査も進みその注目度はさらに高まってきました。

当地の豊かな歴史・文化を紹介するため、平成八年に志摩町歴史資料館が開館し、以来多くのお客様に御来館いただいておりますが、平成二二年に糸島市の誕生に伴って志摩歴史資料館と改称され、また、新たな調査成果も蓄積されたため、新たに解説書を作成いたしました。

当地の歴史・文化を知る手引きとして御活用いただければ幸いです。

平成二五年三月二九日

糸島市立伊都国歴史博物館

館長 榊原 英夫

生活

く古代の人々のくらしぶりく



■ 貝塚での遺物出土状況
(縄文時代 新町遺跡)



■ 貝塚から出土した貝殻
(縄文時代 天神山貝塚)



■ 弥生土器に残る粉圧痕(新町遺跡)



■ 石匙(縄文時代 天神山貝塚)

◆ 古代の人々のくらし

人々は長い月日の中で、様々な努力・工夫を重ねながら、常に暮らしやすさを追い求めてきました。とりわけ糸島半島では、周囲を取り囲む海が人々のくらしを支えるとともに、大陸からの新しい文化や技術をもたらすなど、人々のくらしの変化と常に深く関わってきました。現代に伝わる様々な歴史資料から、私たちの祖先のたゆまぬ努力の一端を知ることができます。

◆ 縄文時代の生活

当時は気候が温暖で、狩りや漁、植物採集によって食料を得ていたことが、貝塚から出土する様々な遺物からわかります。

貝塚の出土品は土器・石器などの道具をはじめ、動物や魚の骨、植物など多岐におよび、当時のくらしぶりを知る貴重な資料となります。

最近の発掘調査では、縄文人のくらしが、私たちが従来想像していた以上に高度で豊かであったことが次々と明らかになってきました。

◆ 弥生時代の生活

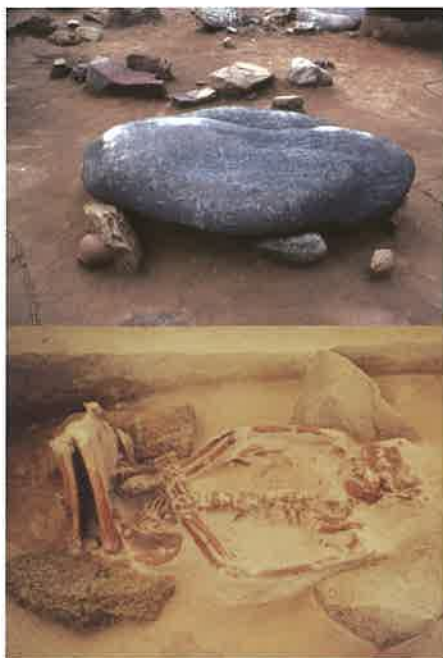
今から二千五百年ほど前、大陸から水稲耕作や多様な磨製石器・金属器を使用する新しい文化がわが国に到来し、弥生時代がはじまります。糸島地方はわが国のなかでもいち早く稲作文化を受容した地域の一つです。志摩ではその足跡を記した遺跡として史跡「新町支石墓群」が有名です。



■ 有柄磨製石剣(稲留箱式石棺墓・右)と鉄戈(御床松原遺跡・左)

墓制

〈死者は語る〉



■ 新町遺跡

13号支石墓(上)と24号支石墓で発見された人骨(下)。



■ 新町遺跡から出土した縄文時代の土壙墓
被葬者は熟年の女性で、左腕には貝輪を14個、右腕に7個装着し、頭部には深鉢が供えられていた。



■ 箱式石棺(熊添遺跡)



■ 久米遺跡の6号甕棺墓(右)と出土した細形銅剣・銅戈(左)



◆ 墓のはじまり

人の死を畏れ、弔う行為は、人生の通過儀礼として古くからおこなわれてきました。志摩では新町貝塚や、桑原遺跡で発見された縄文時代後期の土壙墓が古い事例といえます。

◆ 弥生時代の墓

弥生時代になると墓のつくり方が多様化しました。初期の新町遺跡では、朝鮮半島から伝えられた墓制である支石墓群が発見されています。墓の上に巨石を据えて標石とするもので、地下の埋葬施設は木棺や甕棺が採用されました。

新町遺跡からは、人骨が多数出土し、分析の結果、縄文時代の特徴を持つことが確認されました。弥生文化の担い手が渡来人とは限らず、在地の人々も積極的に関わっていたと考えられます。

一方、甕棺は初めは小児用の棺でしたが、次第に大型化して大人が埋葬される成人棺も登場し、北部九州の特徴的な墓制となりました。

弥生時代になると、墓の中に死者の生前の階層格差を反映した副葬品が納められるものが出現しました。

中期前半の久米遺跡の甕棺墓群からは、銅剣や銅戈、碧玉製管玉などが出土し、ムラの中に青銅製武器や、石製装身具を保有する有力層の台頭が顕著になりました。

弥生時代の後半期になると銅鏡を副葬した首長墓が出現します。伊都では、三雲南小路遺跡をはじめ大量の銅鏡を副葬した王墓が出現し、クニの成立をうかがわれます。



利用案内

- 開館時間 午前10時から午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日、年末年始
(月曜日が祝祭日の場合は翌日)
- 入館料 大人210円、高校生100円
※小中学生・65歳以上無料

◆交通のご利用

JR筑肥線「筑前前原」駅下車
昭和バス野北線、高速バス「いとしま号」
「志摩庁舎前」バス停下車 徒歩5分

糸島市立志摩歴史資料館

〒819-1312 福岡県糸島市志摩初1番地
TEL.092-327-4422



糸島の歴史解説図録 2

志摩の歴史と文化財

—志摩歴史資料館見学の手引き—

発行日 平成25年3月29日

発行機関 糸島市立伊都国歴史博物館 〒819-1582 福岡県糸島市井原916
TEL.092-322-7083 FAX.092-321-9155

E-mail itokoku-museum@mist.ocn.ne.jp

URL <http://www.city.itoshima.lg.jp/soshiki/33/hakubutsukan.html>

印刷 株式会社インテックス福岡